



# AQUA INFORMATION

2018年12月～2019年2月

## 催し物

- 12月26日 「マイワシのトルネード(ウィンターバージョン)」スタート(～2/28)
- 1月1日 カメにちなんだ新春イベントを開催  
アカウミガメの子ガメとのふれあい(～1/6)
- 5・6日 受験生応援企画  
「エンペラーペンギンの幸せの黄色い羽根」プレゼント  
各日先着100部
- 14日 人工授精によって誕生したバンドウイルカの赤ちゃんの愛称が「ハル」に決定  
代表命名認定証授与式開催  
(募集期間 12/4～16 投票総数727票)
- 26日 ダイバーコミュニケーションに「赤鬼ダイバー」が登場(～2/3)



- 1月26日 「飼育係が見た野生の姿～羅臼のシャチ・御蔵島のイルカ～」(写真展)を開催(～3/22)



### 【水族館スクール“もっと知りたい！ダーウィン教室”】

- 12月22日 「さわってさわって！ヒトデとウニのワンダーランド」 小4～6 13名
- 26日 「感じてなっとく！めざせシャチ博士」 小4～6 14名
- 27日 「年末年始も大いそがし！イルカのトレーナー体験(たいけん)」 小1～3 14名
- 1月4日 「～ただよい生きる～ クラゲの不思議」 小4～6 15名

### 【水族館スクール“君もドリトル先生になれるか！”】

- 2月3日 「イルカA班」 12組35名
- 3日 「イルカB班」 11組29名
- 24日 「ウミガメ」 12組31名

※参加は小学生とその家族

## 生物の出来事

- 12月21日 マイワシ約15000尾を追加搬入
- 2月27日 ペンギン巣立ちすべて終了  
※今季のペンギン繁殖数  
ジェンツーペンギン4羽、ヒゲペンギン4羽、アデリーペンギン8羽



ヒゲペンギンのヒナ(生後17日)

### 【季節展示】

- 12月18日 干支展示「正月展示 海のイノシシ」開催(～1/14)  
イラ(中国名：藍背齒魚)
- 1月26日 バレンタイン展示「チョコレートにちなんだ魚」(～2/14)  
チョコレートレンボースネークヘッド、チョコレートモーリー
- 2月19日 ひな祭り展示「ひな祭りは金魚の日！」(～3/3)  
ピンボンパール



## 来訪者

- 12月4日 三重大学 森阪匡通 准教授
- 6日 大分マリンパレス水族館 田中 平 館長
- 1月25日 金城学院大学 岩崎公弥子 教授
- 2月6日 三重大学 吉岡 基 教授
- 6日 港文化小劇場 佐藤雄一 館長
- 19日 東京工業大学 安田幸一 教授

## 講演・その他の出来事

- 12月5日 日動水第44回海獣技術者研究会で口頭発表  
「バンドウイルカの人工授精の1例」 大野 佳  
「進化の海コーナーのリニューアル」 加古智哉
- 12・13日 第2回「ハンファホテル&リゾート・名古屋みなと振興財団水族館情報交流会」を開催(韓国済州島)
- 2月19日 平成30年度名古屋港水族館フォトコンテスト入賞作品を展示(～3/17)
- 27・28日 JACRE第2回水族館研究会で口頭発表  
「タマカイの腹腔内貯留ガスの抜気処置」 星野昂大
- 1月20日 【講演】  
港文化小劇場 わくわくキッズシリーズ 240名  
「サメの不思議にせまる」 森 昌範
- 【職場訪問・館内レクチャー】  
12件 333名
- 【職場体験】  
4件 10名

スマホサイト  
<http://www.nagoyaaqua.jp/sp/>  
(なお、一部の機種でご覧いただけない場合があります)



# さかなかな

NEWS LETTER SAKANAKANA SPRING 2019

表紙写真 平成30年 名古屋港水族館 フォトコンテスト入賞作品  
【募集期間】平成30年10月2日(火)～11月30日(金)  
作品タイトル「おすまし」 撮影者 高橋 博子 さん

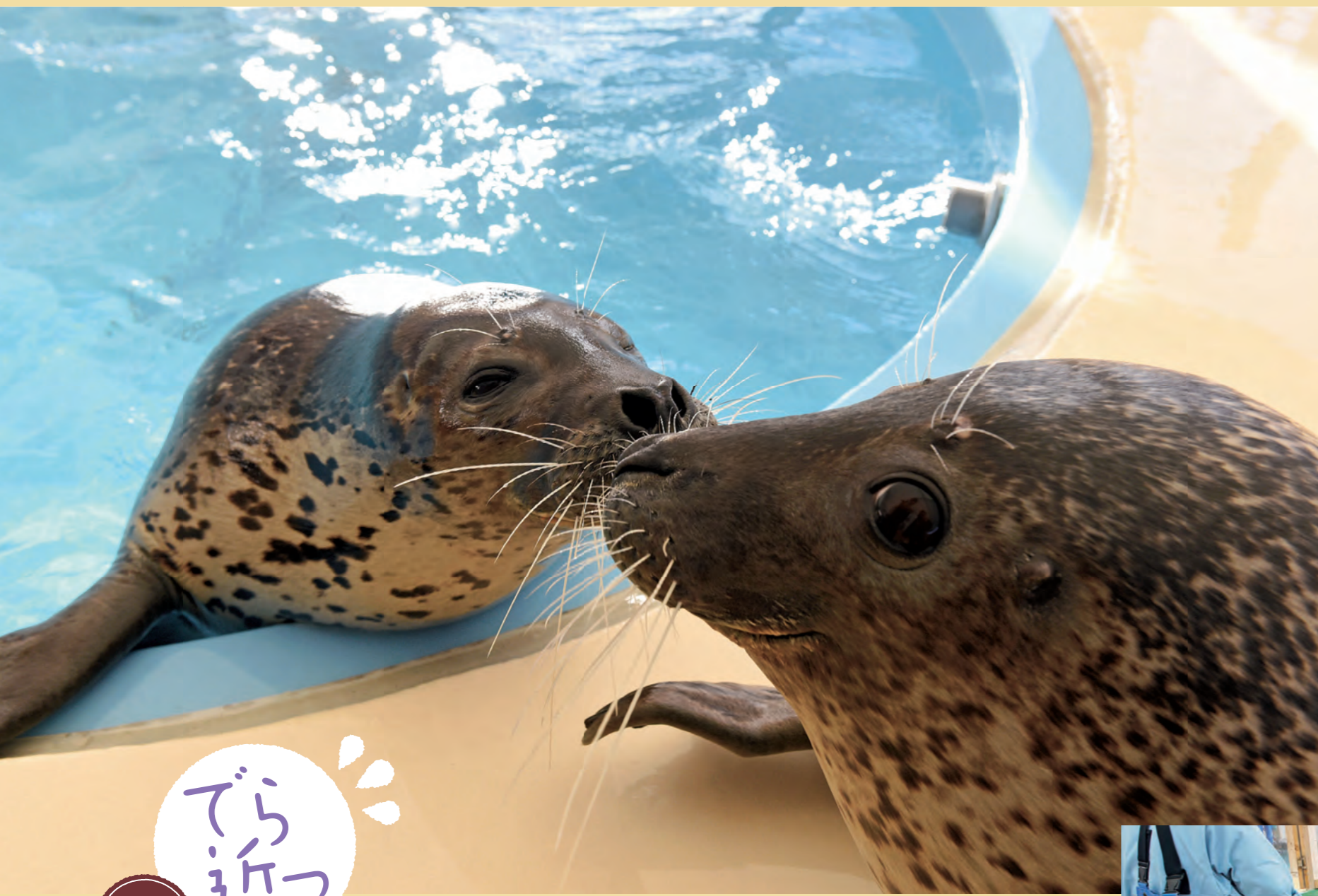
## Vol.101

### CONTENTS

- 1 特集  
でら近っ「ごまちゃんデッキ」で元気いっぱい!!  
ゴマフアザラシ
- 3 水族館トピックス
- 5 水族研究最前線 ダーウィンの箱  
脊椎湾曲症のバンドウイルカ「ハッピー」の成長  
わたしのスケッチブック
- 6 ボランティア便り/水族館スクールレポート
- 7 アクアインフォメーション

ニュースター さかなかな Vol.101 2019年 SPRING  
発行/公益財団法人 名古屋みなと振興財団 名古屋港水族館  
〒456-0033 名古屋港港区港町1番3号 TEL.052-654-7080  
URL <http://www.nagoyaaqua.jp>  
本誌の掲載記事、写真等の無断転写・複製転載を禁じます。

名古屋港水族館



「ごまちゃんデッキ」は屋根がついているので雨だけでなく夏場の暑い日差しもよけられます。みんなが見守る中、無事に引っ越しできました。

### 新施設「でら近っ「ごまちゃんデッキ」」へ

もっと間近で観察していただくために、ゴマフアザラシの新施設を屋外の「しおかぜ広場」に作ることになり、2017年の夏に「でら近っ「ごまちゃんデッキ」」が完成しました。大小のプールがあり、水に強いヒノキで作られた新施設はアザラシたちにとってより広いところで生活ができるようになるうえ、来館者には見やすく木の香りが

心地よいという立派なものになりました。

アザラシたちを木製ケージに入れて新施設まで運び入れました。見慣れない施設のためかケージの扉があくと恐る恐る出てきて、プールには顔をつけて水中を確かめてから入るなど、とても慎重でした。その後は広い陸上で体を乾かしてゆったりと過ごす姿が見られ、すぐに落ち着いてくれました。アザラシたちにとって本当にくつろぐことができる環境になったと思います。

### アラシの「でら近っ!」トレーニング

ごまちゃんデッキでは陸上でのアザラシの姿を間近で見られるだけではありません。実は観覧デッキのガラス面にアザラシたちが外に出られるように扉が設けられています。そこから階段状の台を使って観覧デッキに降りることができるようになっているのです。先日、アラシはやっとデッキまで降りられるようになりました。今後はみなさんの「でら近い」ところで落ち着いて過ごせることを目指します。ポーズを決めたアラシと一緒に記念撮影できるようになるかもしれません!

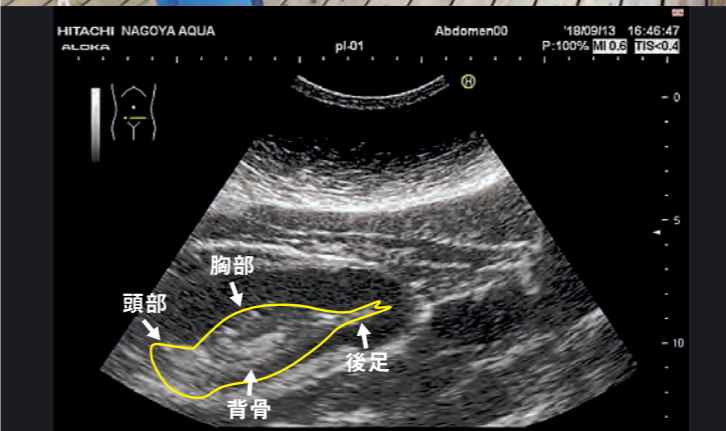


デッキに降りてきたアラシ。まだ慣れてないのか少し落ち着かなさそう。

### ナノハの妊娠、出産

2018年3月25日にナノハとアラシの交尾、9月にはエコー検査で約10cmの胎児を確認できました。順調に行けば、今春には待望の赤ちゃんがうまれる予定です。

実は2015年に初めてナノハとアラシの交尾が確認されましたが、その年は妊娠しませんでした。2016年の3月に再び交尾が確認され、翌年4月11日に赤ちゃんがうまれました。日々大きくなっていったのですが1週間後に死亡しました。とても残念な結果でしたが、その経験を生かして「ごまちゃんデッキ」は作られています。今度こそは無事に成長できるよう、飼育係一同万全の体制で臨みたいと思います。



ナノハの腹部のエコー画像写真です。胎児の動きはあまり見られませんが、出産直前になると胎動が外からでもはっきりわかるようになります。

でら近っ

特集

# 「ごまちゃんデッキ」で 元気いっぱい!! ゴマフアザラシ

飼育展示第二課 小串 輝

ゴマフアザラシは北海道の沿岸海域からオホーツク海、ベーリング海などにかけて生息しています。名古屋港水族館では9歳のメス「ナノハ」と8歳のオス「アラシ」を展示しています。いずれも1歳のときに北海道の「おたる水族館」からやってきました。飼育下での寿命は約30歳といわれているのでまだまだ若い2頭です。

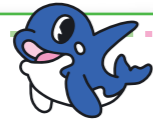
来館したときのナノハは体長107cm体重47kg、アラシは体長90cm体重41kgでしたが、今ではナノハが体長162cm体重124kg、アラシは体長155cm体重99kgと大きく成長しました。

展示は北館のイルカプールとシャチプールの間の円柱状のプールで始まりました。そこでは水中でゴマフアザラシを紹介する「これであなたもごまちゃんマニア」というイベントを行い、ヒレ状の手足の使い方や、ひげで察知した障害物をよけて泳ぐ姿などを解説していました。水中のアザラシを紹介するイベントは全国的に珍しいため、とても好評でした。しかし、このプールは陸上部分が少なく来館者から見えにくいのが難点でした。



照明を上からではなく架台の下から当てることできれいな写真を撮れるように工夫してみました。これでSNS映えは間違いなし!

## グラスツリーを作ってみました



南館では季節や行事に合わせた展示を楽しんでいただける特設水槽を用意しており、今回のクリスマスはグラスをツリーに見立てたグラスツリーを作製して展示しました。

水族館らしいグラスツリーということで、長くきれいなヒレを持つベタや、ボトルアクアリウムをイメージした水草とアカヒレといった淡水魚が入ったグラスを用意しました。また、水族館で育ったクビレズタ(海ブドウ)などの海藻が入ったグラスも設け、よりツリーらしくしました。

一番苦労したのは水質が悪くならないように、魚を飼育するグラスにはすべてパイプをつなげて、ろ過した水が流れるようにしたことです。また、きれいに写真を撮っていただけるように照明を工夫し、ライトをグラスの下から当てるようにしました。

ツリーの土台やグラスへの配管など、今回はすべて手作りだったので非常に大変でした。これからもみなさまに楽しんでいただける水槽を作っていきたいと思いますので今後の「季節展示」にもご期待ください。

飼育展示第一課 岡本 仁

## 「ハル」です！ よろしくね☆



当館で初めて人工授精に成功し、昨年5月17日にバンドウイルカ「ルル」がうんだオスの赤ちゃんの命名式が、1月14日に行われました。

愛称は5つの候補の中から来館者のみなさまに投票していただき、727通の応募中267票の最多投票があった「ハル」に決定！開票しながら1票1票に目を通しましたが、ハルに対していろいろな思いや願いを書いてくださっている方が多く、本当にうれしかったです。代表命名者に選ばれた2名は、この名前に「お母さんの『ルル』から一文字をもらって、春にうまれてすくすくと育てほしい。」「春のうらかな日差しのようにみんなを明るくほっこりさせてくれるような存在になってほしい」という願いをこめていただきました。

最近ではトレーナーが体を触って遊んだり、トレーニングを始めたりと、ハルとコミュニケーションがとれるようになってきました。

みんなの期待を背負ってハルは成長していきます。これからも温かく見守ってくださいね！

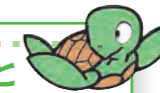
飼育展示第二課 宮嶋 桃子

代表命名者に選ばれた  
井上 凜音  
(いのうえ りおん)さん(右)と、  
鈴木 涼雅  
(すずき りょうが)さん(左)



当館職員によるアカウミガメのふ化・育成についての発表。

## ハンファホテル&リゾートと 名古屋港水族館の 第2回「水族館情報交流会」に 参加しました



昨年1月に行われた第1回情報交流会に引き続き、12月12日・13日に韓国の済州島にて第2回の情報交流会が開催されました。今回の交流会は当館から館長を含む職員5名と、韓国ハンファホテル&リゾートの職員30名、韓国の研究機関の職員5名の計40名で行われました。初日には、「水族館の経営戦略」のほか、「サンゴ類」、「鯨類」、「ウミガメ類」の飼育や展示について計11題の発表などがあり、質疑応答も活発に行われました。翌日はハンファホテル&リゾートが運営している水族館(アクアプラネット 済州)の施設を見学しました。2012年7月にオープンした比較的新しい水族館ということもあり、VR(バーチャル・リアリティ)を用いた映像や、電子チケットなど最先端の技術が導入されていました。また、サンゴやイルカの飼育方法や設備に関する技術交流を行いました。ウミガメ類の繁殖に成功したという話も聞け、当館の技術が現場で活かされており、情報交流会の意義は大きいと実感しました。

飼育展示第一課 安藤 友佑

## 進化する マイワシのトルネード



2007年10月に開始した南館でのイベント、マイワシのトルネードは、11年目を迎えた現在も不動の人気を誇っています。昨年の3月からはカラフルな水中LEDライトを導入し、より華やかなトルネードを楽しんでいただけるようになりました。

そして、新しい試みとして昨年のハロウィンバージョンからは音楽に合わせたライティングを実施しています。各部署のスタッフが何度も集まり音楽やライトの色の変化を決め、実際に水槽で色の変化が音楽に合っているか確認しながら綿密な調整を行いました。

音楽とライトの調整は難しい作業ですが、ハロウィンやクリスマスなど、それぞれの季節に合わせた演出を楽しんでいただけるよう、これからもマイワシのトルネードは進化していきますので楽しみにしてください。

また、昨年12月には新たに約15000匹のマイワシも追加展示しました。音楽やライトの演出だけではなく、さらに迫力のある群れになったマイワシの動きもお楽しみください。

飼育展示第一課 岡本 仁



ハロウィンをイメージした色を音楽に合わせてテンポよく変化させていきます。ライトと音楽のスタートボタンが別の場所のため、二人のスタッフが息を合わせてボタンを押すのが実は一番大変。



このコーナーでは名古屋港水族館で行なわれている保護・研究活動の成果を発表していきます。

## 脊椎湾曲症のバンドウイルカ「ハッピー」の成長

飼育展示第二課 森 朋子

2017年9月23日の午前3時42分に誕生したメスのバンドウイルカ「ハッピー」。当館で誕生したイルカの中では小さい赤ちゃんでしたが、お母さんのウィニーが上手にサポートし授乳してくれていたため、体つきが日に日にしっかりしてきました。生後1週間ほどしたころ、24時間観察を行っていた飼育係たちがハッピーの体型に違和感を覚え始めました。背びれの後ろあたりから体が不自然に曲がっていたのです。新生児健診に合わせて、その部分のレントゲン検査を行ったところ、上下に脊椎の湾曲が確認されました(図1)。当館では初めての事例でしたが、自然界ではこのように脊椎が湾曲する個体が何例も確認されています。

ハッピーは誕生直後から母乳を飲んで急激に成長しました。生後4か月が過ぎ、ハッピーの脊椎の一部に骨折を確認しました(図2)。骨折の原因はわかりません。それでも、国内の水族館で誕生したメスの赤ちゃんと比較するとサイズこそ小さいもののハッピーは順調に成長しています(図3)。誕生直後の体長108cm体重は17kgが、1歳の健診では体長は170cm体重は85kgとなり、体重は誕生時の約5倍に増えていました。湾曲している部分の筋肉も比較的均等についていたため、泳ぎには大きく影響がないように感じましたが、水上に顔をあげる体勢を取ると、尾びれがうまく動かせないせいかプール水流で少しずつ流されていくこともあります。



図1 生後半年 プールをゆったりと泳ぐハッピーとお母さんのウィニー(上)

この部分の背骨が曲がっている



図2 生後4か月半 脊椎についている棘突起が離れている様子が見えます。

定期的にレントゲン検査、血液検査や計測を行いハッピーの状態を把握していますが、成長は一般的なイルカの成長曲線と単純に比較できないため、体調管理にはとても慎重になっています。これから少しずつ母乳から餌に移行していく必要がありますが、餌量も過去の繁殖個体のデータが参考にしづらいため、体の調子や成長などを慎重に見極めながら種類や量を設定しています。

脊椎の湾曲や骨折の影響がハッピーの成長過程でどのような形で出てくるかわかりませんが、今後も飼育係、獣医などスタッフ全員でハッピーの成長をサポートしていきます。

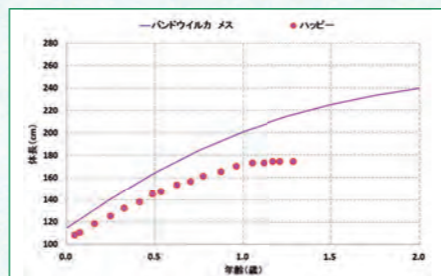


図3 ハッピーの体長

## わたしのスケッチブック

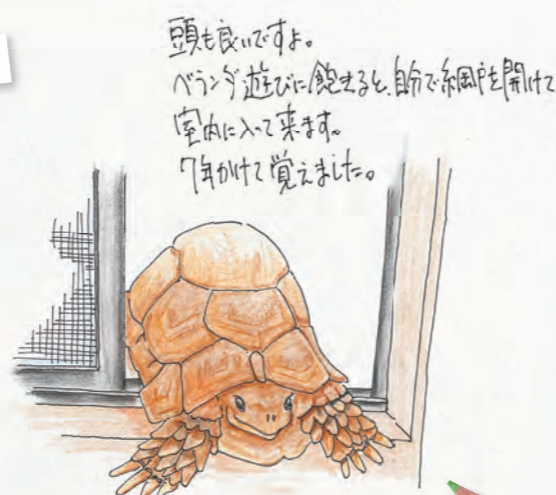
事業部 柴垣 幹夫

### 【アラスギリシャリクガメ】

草食のリクガメで、もう12年ほど飼っています。自由が好きなので、マンションの中で放し飼い。一緒に暮らしていて驚くのは、愛情深さでした。特にスキンシップに対する執着には考えさせられます。

カメは親や相方との家族生活も無く、一人で生きていく生き物と聞きますが、ならばなぜ愛情を理解するのか。なんと。

覚えるのでしょうか。もともと備わっていたのでしょうか。



## ボランティア便り

私の館内おすすめポイント

ボランティア 近藤 千夏

### 南館3階「マングローブ」水槽 助けあって生きる テッポウエビ&ハゼ

かすかな波の音と潮の香りに包まれた明るい空間にマングローブ水槽はあり、そこにいるのが彼らです。テッポウエビは巣穴を掘り、ハゼは外敵が来ないか見張る。それぞれの役割を果たし助けあって暮らす二匹は、ちがう生き物同士なのに強い信頼関係で結ばれているように見えます。「お互い、そこにいることが当たり前」というように並んでいる瞬間を見つけた時は、ほほえましくうれしくなります。カラフルで、見るだけでも楽しいですよ。



▲ダンダラダテハゼとテッポウエビ属の一種。エビの触角は巣穴の外では常にハゼの体に触れており、ハゼの尾びれを振るシグナルを感じるとエビはすぐに巣穴に逃げ込みます。

## 水族館スクールレポート

### 名古屋市内の小学生に「ウミガメレクチャー」を行いました。



学習交流課 市川 隼平

現在、名古屋市などが採用している小学校4年生の国語の教科書に、当館のウミガメに対する取り組みを紹介した「ウミガメの命をつなぐ」が掲載されています。著者は当館の飼育係の松田 乾です。2016年度より名古屋市内の小学校を対象に、この内容を掘り下げた「ウミガメレクチャー」を館内で行っており、今年度は合計16校944名が参加しました。

教科書では書ききれなかったウミガメの飼育や研究、放流したウミガメのその後などを紹介しました。児童

はみな目を輝かせ、時にはメモを取りながら聞いていました。質問時には積極的に手が上がり、児童の関心の高さがうかがえました。館内にはウミガメの繁殖と研究にかかわる展示も多くあります。教科書で紹介されていた送信機(実物)もあり、その展示場所や見方も紹介しました。ふだんは見逃しがちな展示物にも目を向けてもらうことができ、水族館の大切な役割の1つである「調査・研究」にも興味を持ってもらえたように感じました。



▲南館シネマ館でレクチャーを行いました。



▲ウミガメに装着した送信機